

2019年2月4日

都城市長 池田 宣永 殿

旧都城市民会館に関する公開質問状

南九州の文化と建築を考える会

一昨年、旧都城市民会館（旧市民会館）を貸与していた学校法人南九州学園（南九州大学）から、都城市へ突然の返還の申し入れがありました。その後、一般社団法人日本建築学会への報告、民間提案の募集、再度の市民アンケートの実施等、都城市として広く市民に考える機会を持たれたことに感謝申し上げます。

アンケートの回答は「83.5%が解体」と報道され、残念な結果でありました。しかし、市民に送付された文書には内容不備や説明不足があったものと認識しております。そこで、「南九州の文化と建築を考える会」として以下の事項について「公開質問状」という形で回答を求めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

尚、この質問状は旧市民会館が解体されるかもしれないという前提で書かれておりますこと、ご了承いただきたく存じます。

■質問事項1 添付文書に、旧市民会館についての建築物の価値が変わったことへの説明が欠けているのではないか。

アンケートと一緒に送られた文書に、市の考え方として「平成19年当時の原点に戻ったものと理解し」とある。しかし、旧市民会館は平成19年当時は築41年だったが、アンケートを実施した平成30年は築52年となっている。建築物は築50年を経ると、登録有形文化財の登録条件を満たし、価値の変化がある。そのことについて、なぜまったく触れられていないのか。

■質問事項2 提示された金額について、大幅な開きがあることへの説明がなされていない。金額の根拠も示していないのはなぜか。

南九州大学が受託したパシフィックコンサルタンツ（株）の提示した約42.4億円（建物全体を活用する場合）の根拠が不明である。添付資料には目視調査でという文言もあるが、どのような調査や資料から算出したものなのか。一方、日本建築学会は実施設計で使われた構造計算書を元に検討し、大規模な耐震改修は必要なしという結果を導き出している。金額が書かれた表の下には「日本建築学会が示す想定費用は、基本的な整備工事費のみで、その後の工事費用は含まれていないため、+αの費用は活用案によって変動します。」「想定費用に大きな差があるのは、耐震改修工事の違いによるものですが、日本建築学会は大規模な補強は不要であると主張。詳細な耐震診断を実施しないと正確

には分かりません。」と書かれているが、赤字で強調している部分を見ても、日本建築学会の提示金額が信用できないと印象操作をしているように感じるがどうか。

※アンケート資料では赤字のみです。モノクロ印刷に対応し、下線を入れました。

■質問事項3 解体費用と解体後どうなるのかが書かれていないのはなぜか。

解体費用はメモリアル作成も含め2億円超になるが、この費用がアンケートの資料に書かれていない。また、その後この一等地がどうなるのかにも触れていない。存廃について意見を求めるならば、記載は必要であると思われるが、なぜ書かれていないのか。

■質問事項4 このアンケート結果は有効といえるか。

アンケートの有効回答率は34.4%で、結果は解体83.5%、保存15.3%、その他1.2%であった。解体83.5%という数値も、実際、解体と書いた有効回答は1150人であり、4000分の1150は28.75%に過ぎない。これが市民の総意とは言えないのではないか。もし、解体の理由としてこのアンケートを挙げる必要があるならば、理由の一つとしてはならないと考える。

■質問事項5 旧市民会館の世界遺産の可能性について、議論を深め、市民に周知する必要があるのではないか。

昨年12月、日本建築学会主催のシンポジウムにおいて〈都城市民会館を含むメタボリズム建築群の世界遺産登録〉への可能性と計画が発表された。イコモス日本理事で国立西洋美術館の世界遺産登録に尽力した山名善之教授(東京理科大学)の言及であり、可能性は十分にあると言えるだろう。安易な解体をせず、適切な安全管理をしながら、まずは後世に伝えていくことが重要であると考えます。都城市は、文化財保護関連予算の申請や使い道を限定したふるさと納税の充当など、可能な財源の確保についてどこまで検討したのか。世界遺産登録の可能性を検討もせず、市民に広く知らしめないという状況で今後の方針を決めることは、市民に対する背信の恐れがあり、人類と文化に対する敬意に欠ける行為ではないか。

以上5点について、ご回答をお願いするものです。尚、回答は可能であれば3月4日までに広報・マスコミ等に掲載くださることをお願いいたします。また、この「公開質問状」については、マスコミ関係者にも同様のものを配布しましたことを申し添えます。

南九州の文化と建築を考える会 代表 平川靖三
連絡先：事務局 大藪貴洋